

(二〇二二年度)

9 国語問題 (六〇分)

(この問題冊子は21ページ、三問である。)

受験についての注意

- 一、監督の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、携帯電話・PHSの電源は切ること。
- 三、試験開始前に、監督から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号かどうかを確認し、氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 四、監督から試験開始の合図があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっているかどうか確かめること。
- 五、解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
- 六、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能などを使用してはならない。
- 七、マークをするとき、枠からはみ出したり、枠のなかに白い部分を残したり、文字や番号、枠などに○や×をつけたりしてはならない。
- 八、訂正する場合は、消しゴムでいねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
- 九、解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。採点が不可能になる。
- 十、試験時間中に退場してはならない。
- 十一、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十二、問題冊子は必ず持ち帰ること。

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

次のような情景を思い浮かべよう。平和な漁村で漁師が生活をしている。彼は木の舟を漕ぎ、毎朝沖に出て何がしかの魚を捕ってくる。ところが、木の舟なのでだんだん傷んでくる。腐ってくる場所もあるだろうし、たまには岩にぶつかりもあるだろう。したがって、ときどき新しい木材で修理しなければならぬ。漁師は次第に年をとり、引退する時期が来る。そして、今日からお前が舟を漕ぐんだと言って、息子に自分の舟を引き継がせる。息子も同じように毎日漁に出る。舟はさらに悪くなり、修復されていく。そして孫の代になる……。木の舟は修理の度に部品が替わるから、ある時点まで来るとすべての部品が交換され、初めの材料は何もなくなってしまう。そこで疑問^Aがおこる。いったい、この船はおじいさんの舟と同じものなのか。毎日使ってきた舟だから、同じ舟に決まっている気がする。しかし材料という観点からは、孫の舟にはおじいさんの舟の材料は残っていない。それでも同じ舟と言えるだろうか。

古代ギリシャから繰り返し論じられてきた神話「テセウスの舟」だ。集団が同一性を維持する仕組みを、この状況を手がかりに考えてみよう。材料が替わってもどうして同じ舟なのかという問いに対しては、アリストテレスが提示した解決がある。すなわち、舟を構成する木材という質料は変化しても、この舟をこの舟たらしめる、設計図に相当する形相は維持されている。したがって、すべての部品が交換された舟も、本質的には同じ舟と見做せるといふものである。

しかし次の状況を考えると、話はそれほど簡単でないことに気づく。目の前で瞬時に舟全体を破壊してみよう。そして前の舟と同じ構造になるように、設計図にしたがって舟を新しい材料で建造したら、どうだろうか。おじいさんの大切な舟を壊されて驚く孫に対して、「ほら、おじいさんの舟を新しくしてやったよ」とでも言ってみよう。²「こんなものおじいさんの舟じゃない。複製にすぎない」と、孫は憤慨するにちがいない。一〇〇年かかって徐々に材料を替えようが一瞬で替えようが、すべての材料が新しくなったことには違いがない。しかし心理的にはまったく違う感じがする。すべての部品が交換されても、それに必要な期間が十分長ければ、同じ舟であるかのような感覚が自然に生まれてくる。

3 我々が抱く同一性の感覚がすぐれて心理的な現象だという点を明確にするために、ホップズに倣って敷衍しよう。舟板が傷むにつれて新しい材料と取り替えてゆく際に、古くなった材料を捨ててしまわず、保存する。そして舟の初めの材料がすべて新しく交換された後で、保存してあった元の材料を使って、もう一度設計図通りに組み立ててみよう。そうすると、初めの舟A、新しい材料で徐々に修復した舟B、そして元の材料を使用して再度組み立てた舟Cという三つの舟が概念上考えられる。古い材料をその都度捨ててしまい、舟Cが出現する可能性がなければ、舟Aと舟Bとの間に連続性が感じられる。しかし、残っていた古い材料を組み立てて舟Cが出現した瞬間に、我々の確信は揺らぐ。古びて傷んだ舟Cを目の当たりにするや否や、それまで舟Aと同一視されていた舟Bが途端に複製の位に格下げされるとともに、傷つきボロボロになった舟Cが実はおじいさんの本当の船だったのだという感慨が現れる。そして同時に、例えば古い板材に残された落書きを見つけるにつけ、おじいさんといっしょに過ごした楽しい日々の思い出が現実感をもって蘇る。

4 これでわかるように、形相の連続性を根拠に同一性の保証はできない。それ以外の何かが必要になる。しかし、その何かは舟自体には存在していない。ではどこか。同一性の根拠は、対象の外部に隠されている。

今、目の前に一つの塊があると想像しよう。この塊のどの部分も時間の経過を通してまったく変化せず、同じ状態を維持するならば、この塊は同一性を保つ。では次に、この塊から極少量の部分を取り取るか、あるいは他の材料を微量だけ加えよう。この場合、厳密に言えば、塊全体の同一性は破棄されている。しかし実際にはこれほど厳密には考えず、変化が非常に小さければ、同一性が維持されていると我々はふつう認識する。もし人間に認知されない程度の個々の変化が徐々に生じるならば、時間が経過して変化の総量がかなりの程度に達しても、同一性が中断された事実到我々は気づかない。

7 言い換えるならば、対象の異なる状態が観察者によって不断に同一化されて生ずる表象が同一性感覚を生み出すのであり、時間経過を超越して継続する本質が存在するために、対象の自己同一性が保証されるのではない。対象の不変を信じる外部の観察者の存在が、対象の同一性という現象を構成する。同一性の根拠は、対象の内在的状态ではなく、同一化という運動が生ぜしめる社会・心理現象に求めなければならない。

構成部品が間断なく入れ替わる舟と同様に、民族集団もその構成員が不断に交代する。日本では毎年およそ九〇万人が死亡し、一二〇万人ほどの赤ん坊が生まれる。一〇〇年を待たずして構成員のほとんどが入れ替わり、それから少し経てば「日本人」の構成要素の総入れ替えが完了する。それにもかかわらず、民族集団がその同一性を保っているという感覚を我々が持つのは、構成員が一度にすべて交換されず、ほんの一部ずつ連続的に置換されるからだ。日本において毎日交換される構成員の割合は総人口の〇・〇〇二%ほどにすぎず、残りの圧倒的多数は維持されている。一つの状態から他の状態への移行が断続感なく滑らかなに行われるおかげで、日本人と呼ばれる同一性の感覚が保たれる。

特にヒトの場合は他の動物と異なり、生殖活動期間が季節の限定を受けないので、集団の更新時期が特定化されず、したがって、変遷が切れ目なく連続的になされるという事情も、⁸民族集団の同一性錯視を容易にしている。

⁹対象の同一性維持感覚を生み出す条件の一つとして、対象の各部分が相互依存し、それらが共通の目的に向かって有機的に結合されている事態をヒュームは指摘する。度重なる修理のために著しい変化が生じているにもかかわらず、舟が同一性を保っているという感覚が消えないのは、舟の各部分が同じ目的のために存在し続けると了解されるからだ。部分と全体との間に必然的な関係が想像される際には、あたかも構成部分から遊離して全体が存在するような錯覚が生まれ、材料が入れ替わっても舟自体の同一性感覚が維持されやすい。

レンガ作りの教会が長い年月を経て荒廃する。信者たちは力を合わせて教会を復旧するが、レンガではなく他の材料、例えば石材を使い、建築様式も近代的にしたとしよう。先ほどの舟の場合とは違い、この例においては材料だけでなく、外形も以前の教会と断絶が起きている。しかし、これら新旧二つの教会に対して信者たちが同じ目的を見いだすために、二つの異なる対象が同一化され、教会の自己同一性が維持される。新しい教会の建設時には古い教会がすでに消滅していることも、同一性感覚の強化に役立つ。国家・民族・大学・法人といった共同体が成立・維持される背景には、同一性を生成するこのからくりが隠されている。

(小坂井敏晶『増補 民族という虚構』)

〈注〉 アリストテレス：古代ギリシャの哲学者

ホッブズ：一七世紀英国の哲学者

ヒューム：一八世紀英国の哲学者

問一 傍線部1はどのようなことを言っているか。次の中から著者の意見としてもっとも適切なものを一つ選べ。

a 舟に例えれば、設計図は維持し、使う素材を長い期間にわたりながら交換し、全体としての継続性を確保すること。

b 舟に例えれば、設計図は維持するものの、古くなった素材は一気に交換してしまうかのように、メンバーも大量に変えてしまうこと。

c 舟に例えれば、設計図は維持し、古くなった素材は修繕した後で再利用することで、全体的な継続性を守ること。

d 舟に例えれば、設計図を完全に無視し、素材も一気に交換してしまうかのように、短期間でメンバーを大きく変えてしまうこと。

問二 傍線部2のように著者が述べる理由は何か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 大好きなおじいさんの舟が破壊されてしまったから。

b 設計図は維持されても、素材に継続性が感じられないから。

c 新しく作られた舟が古い舟の複製にすぎないから。

d 設計図は尊重されていても、木材の一部が以前とは異なるから。

問三 傍線部3はどのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 目の前でおじいさんの舟を破壊された孫が、新しい素材で再建された舟を見て驚き憤るように、人々は物事の同一性に関し、感情的にしか振る舞えないということ。

b 実際は形も素材も時間の流れの中で変化しているのに、一定の条件がそろえば、人々は物事に何も変化が起こっていないと感じること。

c もし目の前にある一つの物質が時間が経っても何ひとつ変化をこうむらない場合、そのときの驚嘆の念が同一性の感覚につながるということ。

d レンガ造りの教会が老朽化したため、改築を施したとしても、信者たちが以前と変わらない信仰心をもって教会に通い続けるということ。

問四 傍線部4のように著者が述べる理由は何か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 状況次第で、構成原理が異なっても同一のものと受け止められるケースがありうるから。

b 材料は変化しても、設計図が同じであれば舟の同一性は保たれるとしたアリストテレスの見解は、すでに否定されたから。

c 長い時間を隔てて、二つの物を見比べてみたとき、見かけには変化がなくても、それだけでは二つの物の同一性を確保できないから。

d 古代ギリシャの神話「テセウスの舟」が語るように、材料という観点だけからでは、同一の舟なのかどうか断定できないから。

問五 傍線部5は何を意味するのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 対象物が変わっていないと信じる観察者たちのこと。
- b 舟を設計し、舟の素材である木材を組み立てる人々のこと。
- c 対象物があるがままに眺める観察者たちのこと。
- d 対象物を構成し相互依存する各要素のこと。

問六 傍線部6のように著者が述べる理由は何か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 限界を持つ認識能力は、きわめて微細な変化が生じた場合は、何も起こらなかったと容易に錯覚してしまうから。
- b 対象が同一だという感覚を生み出すものが、対象を観察する者の心の中に生まれる表象だから。
- c 人間は、舟の製作に用いられる木材がすべて交換されたとしても、同一の舟のままだと思いきめるくらいだから。
- d 人間は、教会のレンガが石材に変わり、建築様式がまったく別のものになったとしても、信仰をやめることがないくらいだから。

問七 傍線部7はどのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a ある物質に変化が起こつていないことを誰もが確信できるためには、優れた科学者たちによる実証が必要だということ。

b 対象の自己同一性が保持されるためには、過去・現在・未来という時間の枠組みを超え出た観察者が存在する必要があるということ。

c 対象が同一のままだと認識されるには、対象そのものが不変であるよりはむしろ、観察者が対象物の同一性を信じる必要があるということ。

d 民族集団が時間が経つても変化していかないのだという認識が生まれるためには、それ以外の民族集団によって変化していないと承認されなければならないということ。

問八 傍線部8はどのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 民族集団間に違いはないという思い込みのこと。

b 民族集団の個性は永遠に変化しないという勘違いのこと。

c 民族集団の同一性は外部の観察者によってしか維持されないという思い込みのこと。

d 実際はメンバーは交換されているのにと同じ民族だと認識すること。

問九 傍線部9ほどのような意味か。次の中からもっとも適切なもの一つ選べ。

a 対象物の各要素がお互いに不可欠でありながら、部分と全体の間には必然とは思えない関係性があると信じられるような状況のこと。

b 対象物の各要素がお互いに不可欠であり、さらに部分と全体の間にも偶然ではない関係性があると信じられるような状況のこと。

c 対象物のごく一部分だけを削り取り、他の材料を微小な量だけ加えることで、その物自体の同一性を変化させないという状況のこと。

d 日本で毎年九〇万人が死亡するにもかかわらず、一二〇万人ほどの赤ん坊が生まれることで、日本人という民族集団の存続が維持されること。

問十 本文の内容に合致しないものを二つ、次の中から選べ。

a 国家も大学も同じ仕組みの下で同一性を維持している。

b 日本人の同一性の感覚が保持されるのは、構成員の交換が少しずつつくりと行われるからである。

c 一瞬にして構成要素がすべて交換されてしまっても同一性が維持されることもある。

d 人間の同一性の感覚は条件を変えたと容易に揺らぎを見せるものである。

e 古代ギリシャ人も物事の同一性を問題にしていた。

f 同じ設計図を用いて新しい舟を作るとき、古い方の舟がない場合は同一性の感覚が強化されやすい。

問十一 波線部Aの「疑問」に対する著者の答えは何か。本文全体の趣旨から判断して、次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 舟を構成する素材である木材は変わったとしても、舟の設計図に相当する形相はそのままなので、本質的には同じ舟と見なしてよいはずである。

b たとえ素材が変化しようとも、ずっと毎日使ってきた舟なのだから、あくまでも同じ舟と考えるべきである。

c 舟を構成する素材である木材を、もし一瞬にして取り換えたのだとしたら、その場合は、別の舟になったと見なすべきである。

d 人間が持つ同一性の感覚はきわめて心理的なものであり、部品全体が交換されたとしても、同じ舟だという感覚がその人の中にあれば同一である。

次の文章を読んで、後の間に答えよ。

自然主義といふ言葉とヒロイックと云ふ文字は仙台平の袴と唐棧の前掛の様に懸け離れたものである。従つて自然主義を口にする人はヒロイックを描かない。實際そんな形容のつく行為は二十世紀には無い筈だと頭から極めてかかつてゐる。尤もである。

けれども實際世の中のない又は少ないと云ふ事実と、馬鹿げてゐる、滑稽であると云ふ事実とは違ふべき筈である。吾々の見渡した世間にさう眼につく程ごろごろしてゐない物のうちには、常人さへ唾棄して顧みなくなつた(従つて存在の権利を失つた)のも沢山あるだらうが、貴重なため容易に手に入りかねるのも随分あるべき訳である。ヒロイックは後者に属すべきものと思ふ。

自然派の人が滅多にないからと云ふ理由でヒロイックを描かないのは当を得てゐる。然し滅多にないからと云ふ言辞のもとにヒロイックを軽蔑するのは論理の昏乱である。此派の人々は現実を描くと云ふ。さうして現実曝露の悲哀を感じるといふ。客観の真相に着して主観の苦悶を覚ゆるといふ。一々賛成である。けれども此苦悶は意の如くならざる事相に即し、思ひの儘に行かぬ現象の推移に即し、もしくは斯くあれかし、斯くありたしとの希望を容れぬ自然の器械的なる進行に即して起る矛盾扞格の意に外ならぬ。云ひ換れば客観の世界と一致をかくが為である。現実が吾に伴はざるの恨みである。又云ひ換ればわが理想がわが頭の中に孤立して、世態とあまりに没交渉なるがためである。冷刻なる自然がわが知識と情操と意志を侮蔑して勝手に横着に非人間的に社会を動かして行くからである。

自然主義者の所謂主観の苦悶を斯く解釈するとき、理想の二字を彼等の主観中より取り去る事は困難とならねばならぬ。広義に於ける理想を抱かざるものが、自己又は他人の経過した現実を顧みて、之を悲しむの必要もなければ之に悶ゆるの理由もない筈である。

一たび此論断を肯つたとき、彼等は彼等の主観のうちに、又彼等の理想のうちに、彼等の平素排斥しつつあるが如く見ゆる

諸の善、諸の美、又もろもろの壮と烈との存在を肯はねばならぬ。従つてヒロイックは彼等の主張せんと欲して、現実に見出しがたきが為めに、これを描くを憚り、もしくは之を描くを恐るる一種の行為と云はねばならぬ。

5 彼等にしてもし現実中に此行為を見出し得たるとき、彼等の憚りも彼等の恐れも一掃にして拭ひ去るを得べきである。況んや彼等の輕蔑をや虚偽呼りをやである。余は近時潜航艇中に死せる佐久間艇長の遺書を読んで、⁷此ヒロイックなる文字の、我等と時を同くする日本の軍人によつて、器械的の社会の中に赫として一時に燃焼せられたるを喜ぶものである。自然派の諸君子に、此文字の、今日の日本に於て猶真個の生命あるを事実の上に於て証拠立て得たるを賀するものである。⁸彼等の脳中よりヒロイックを描く事の憚りと恐れとを取り去つて、随意に此方面に手を着けしむるの保証と安心とを与へ得たるを慶するものである。

往時英国の潜航艇に同様不幸の事のあつた時、艇員は争つて死を免かれんとするの一念から、一所にかたまつて水明りの洩れる窓の下に折り重つたまま死んでゐたといふ。本能の如何に義務心より強いかを証明するに足るべき有力な出来事である。本能の權威のみを説かんとする自然派の小説家はここに好個の材料を見出すであらう。さうして或る手腕家によつて、此一事實から傑出した文学を作り上げる事が出来るだらう。けれども現実はこれ丈である。其他は嘘であると言張する自然派の作家は、一方に於て佐久間艇長と其部下の死と、艇長の遺書を見る必要がある。さうして重荷を担ふて遠きを行く獸類と撰ぶ所なき現代的の人間にも、亦此種不可思議の行為があると云ふ事を知る必要がある。自然派の作物は狭い文壇の中にさへ通用すれば差支ないと云ふ自殺的態度を取らぬ限りは、¹⁰彼等と雖亦自然派のみに専領されてゐない広い世界を知らなければならぬ。病院生活をして約一ヶ月になる。人から佐久間艇長の遺書の濡れたのを其儘写真版にしたのを貰つて、床の上で其名文を讀み返して見て「文芸とヒロイック」と云ふ一篇が書きたくなつた。

(夏目漱石「文芸とヒロイック」)

(注) 仙台平…上質でしつかりした袴用の絹織物。

唐棧…縞のあるやわらかな綿織物。

昏乱…混乱

曝露…暴露

器械的：機械的　扞格：反発し合うこと。　冷刻：冷酷　佐久間：佐久間勉（一八七九～一九一〇）潜水艇長として潜航訓練中、水没事故により殉職した。艇内で死ぬまで部下を指揮し、報告を書き続けた。

問一　傍線部1について、「後者」とはどのようなものか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a　現在の価値観からすると滑稽に見えるもの。
- b　世の中にあまり見かけなくなったもの。
- c　存在の権利を失ったもの。
- d　貴重なために簡単には手に入らないもの。

問二　傍線部2について、「論理の昏乱」と筆者が断定する根拠となっている考えは何か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a　一般の人々がヒロイックな事象を滅多にないと思う感覚と、自然派の人がヒロイックな事象を軽蔑する感覚には、共通点が見られるという考え。
- b　ヒロイックな事象が世の中に少ないという事実と、ヒロイックな事象が馬鹿げているという事実は、関係がないのであり、それを自然派はわかっていないという考え。
- c　自然派がヒロイックな事象を軽蔑する根底には、滅多にないことへの羨望が存在するという考え。
- d　世の中にヒロイックな事象が少ないのは普通のことであって、それをその希少さゆえに重んじない自然派には、現状認識の上で欠落があるという考え。

問三 傍線部3について、「客観の世界が主観の世界と一致をかく」ということに、相当しないものを、次の中から一つ選べ。

- a 自分の思ったとおりに現実が動いてゆかないこと。
- b 自らの希望を自然が受け入れてくれないこと。
- c 自らの理想が世の中において孤立してしまうこと。
- d 自分と他人がかけ離れたかたちで社会のなかに存在すること。

問四 傍線部4について、「理想の二字を彼等の主観中より取り去る事は困難」と筆者が考えるのはなぜか。その理由としてもつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 自然主義者は、理想に執着していて、現実や自然と没交渉であることに気づいていないから。
- b 自然主義者は、自らの理想が生んだ苦悶を、悲哀というロマンチックなものと錯覚してヒロイズムに陥っているから。
- c 自然主義者は、主観的なものである苦悶を、客観的なものとして受けとめ、それを理想と信じているから。
- d 自然主義者は、善、美、壮、烈といった広義の理想を知らず、非人間的に社会を生きているから。

問五 傍線部5は、どういうことを言っているのか。次の中からもつとも適切なものを一つ選べ。

- a 彼らが自らの主観ゆえに、善、美、壮、烈といったヒロイックなるものを排斥しているということ。
- b 彼らが主観の苦悶に陥っているので、客観の苦悶である他人の傷みを受け止められないということ。
- c 彼らが現実の中でヒロイックを見出すことができれば、ヒロイックを描けるようになるということ。
- d 彼らが現実や自然を軽蔑できれば、現実や自然が与える苦悶を受けずにすむということ。

問六 傍線部6は、どういう意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a それゆえに、彼らの軽蔑も虚偽呼ばわりも拭い去るのが至当である。
- b なおさら、彼らの軽蔑も虚偽呼ばわりも拭い去ることができる。
- c かえって、彼らの軽蔑も虚偽呼ばわりも拭い去ることになろう。
- d にもかかわらず、彼らの軽蔑や虚偽呼ばわりは拭い去れない。

問七 傍線部7について、「器械的の社会の中に赫として一時に燃焼せられたる」とは、どういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a ヒロイックが、機械のように進んでゆく社会の中で、一瞬盛んに燃え上がるように実現されたこと。
- b ヒロイックが、機械のように冷たい社会の中で、熱い炎が燃え上がるように一時世の中を明るく照らし出したこと。
- c ヒロイックが、機械のように進んでゆく社会の中で、一瞬時間を止めるかのように生気をもたらしたこと。
- d ヒロイックが、機械のように冷たい社会の中で、真つ赤な炎が燃え盛るように一時希望を与えたこと。

問八 傍線部8について、筆者がこのように考えるのはなぜか。その理由としてもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 佐久間艇長がヒロイックを実現していることで、自然主義者の描く現実が色あせたものになるから。
- b 佐久間艇長の遺書が、ヒロイックを軽蔑する自然主義者のその感情を、強化することになるから。
- c 佐久間艇長が存在したことで、二十世紀にヒロイックは無いとする自然主義者の考えが崩されることになるから。
- d 佐久間艇長の死は現実暴露の悲哀のひとつなので、理論上、自然主義者はヒロイックを描かねばならないから。

問九 傍線部9について、「此種不可思議の行為」とはどういう行為か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 死を免がれたという本能による行為。
- b 本能より義務心を優先して遂行する行為。
- c 義務心より本能の方が強いことを示す行為。
- d 本能がいかに強いものであるかを説く行為。

問十 傍線部10について、「自然派のみに専領されてゐない広い世界」とはどういう世界か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 善、美などを含み持つヒロイックが現実存在することを、充分認知している世界。
- b 本能は義務心を凌駕するほど強いものであるという認識に立った世界。
- c 機械的な側面を持つ社会と、主観的と言える人間の希望や理想が、一致する世界。
- d 佐久間艇長の遺書を床の上で見てこの文章「文芸とヒロイック」を書く、筆者の病院生活の世界。

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

「いつものこと」が壊れると、人は動揺し苦勞し、ときに混乱する。周囲はその事態によって自分たちの「いつも」が脅かされるので、その人を「非日常」へ追いやるうとする。「本人のため」という理由をつけて。「専門家」それも「いい専門家」が、¹排除を正当化するための必要事項である。しかし苦勞を抱えたときこそ、自分の「いつも」がより大きな拠りどころとして意味を持つ場合が多いだろう。「いつも」が苦勞なのでそこから脱出しようとする場合もあるが、人は誰も「いつも」から出ていけとは言われたくないし、追われたくない。日常というものはいまやすたれ壊れたなどと、軽々に言うことはできない。自分たちの場所であると感ずることのできる「いつも」を作り出していく以外の道はないのである。

災害や大事故、親しいものの死によって「心の傷」を受けたと表現されるものの中身には、自分を日頃支えてきたなじんだものを喪失したことの衝撃が大きくふくまれている。以前に接したある小説のなかのひとつの場面が、印象深くわたしのなかに残っている。幼い三人のきょうだいを残して、母親が亡くなったくんだりであった。一番上の女の子は十歳くらい。母を亡くした日に彼女は泣きながら、幼い弟と妹のために好物のオムライスを作ってやる。そしていつもと同じように、²ケチャップで卵の上に赤い花を描いてやるのである。母親が亡くなったというのに、のんきにケチャップの花どころではないだろうと思う人がいたら、それは違う。「いつもと同じようになじんだことを」。自覚することはなくとも、それが悲しみのなかの子どもたちを支える、³せめてもの知恵なのである。

「傷を負ったらカウンセリング」という感じ方考え方には、その知恵が失われている。つらいときになじみのない見知らぬ専門家³が現れることで、人ははたして安心できるのだろうか。逆に、人が不運に見舞われたときこそ、これまでの時空間のなかでなじんできた人びとの出番なのだ。言葉でなぐさめることばかりではなく、むしろちよつとした行為と好意が人を助ける。おいしいお茶を淹れる。少しの食べ物¹を差し入れる。小さな子どもをあずかる。そのようなこと。わたしが家族の大病で気持ち¹が切迫していたとき、近所の友人たちが自分の家のおかずを詰め合わせたお弁当を折々に届けてくれ、ありがたく心づよ

かったことを思い出す。

相手の辛い体験に対して、だまっていいねいに話を聞く。そして自分の思いを言う。それは易しいことではなくとも、誰もがなんとか身につけたい礼儀のうちだ。専門家の特技として放棄するのではなく、そしてただ聞くだけでなく、できることを探し、まわりの人と考え合う。日常のなかにそのような関係をとりもどし組み入れていくことは、いまや不可能なのだろうか。

なじむことと言えば、大震災のような災害で人びとが失うもののひとつに、身になじんだ風景がある。見慣れた風景は変わってしまう。それでも人は、それまで住んできたなじみの土地に、ふたたび住みたいと願うのだと思う。前章で述べたことであるが、阪神・淡路大震災のあと、被災者連絡会は仮設住宅を、もとの生活圏が限りなく近いところに建設するようにと要求している。そこで被災したおたがいがやっと、なじみの顔に生活のなかでふたたび会える。破壊されたといえ、親しい風景を偲ぶことができる。勝手もわかる。しかし行政がその願いを受け入れず仮設住宅の大半を遠隔地に建設したことに、連絡会の人びとは怒りをぶつけている。

災害の直後は、水と食料をはじめとする生活必需品を早急にとどけることが行政の役割であるが、一段落したのちは、日常すなわちなじんだ世界を被災者が少しでも手にできるようにとの考え方が大切だ。なじんだ世界の復権が、必ず人を支える力になるからだ。そこを足場として被害に向き合い自分たちの力で立ち上がろうとするときに、悲しみや辛さに耐える力も沸いてくるものではないかと思う。ことさらに「ケア」などという言葉を持ち出さずとも。

なじんだ世界の豊かな中身は、⁵身体性の積み重ねに支えられている。それは生活を形作っているひとこまひとこまのことだ。手応えの薄れた生活と化しているとはいえ、オムライスを作るときにケチャップの花ひとつで卵のてっぺんを飾る繰り返しが、いつのまにか子どもの暮らしに根づくこともそうだ。駅まで毎日歩く道順、洗濯物を干す手順、野菜の切り方の癖といった小さなことも。ある料理家の本に「わけもなく千切りが好きで生まれた料理」という項があった。千切りは面倒な仕事だが、それだけで人を落ちつける。素材の扱いに専念せざるをえない慣れた作業だからだ。ささやかな生活のなじみある断片が

つながりあい、黙って人を支え助けている。まして、畑や海で自然と身体的な交流をして働き暮らしている人びとの持つ「なじみの力」は、どれほど大きく確かなものであるうか。

こう考えてくると、「心のケア」や「癒し」に専門家が登場していることは、消費社会の爛熟、消費主義埋没の問題であることははっきりしている。「生きることは買うことなり」の暮らしが「なじんだ世界」を薄れさせ、心もとなさを増しているのだ。

(小沢牧子「心の専門家はいらない」)

問一 傍線部1「排除を正当化する」とはここではどのようなことを意味するか。次の中からもっとも適切なもの一つ選べ。

- a 和を乱すおそれのある人物を追出すことによって、慣れ親しんだ日常を回復すること。
- b 心の傷を抱えた人物を心のケアを職業とする専門家に委ねること。
- c 慣れ親しんだものを喪失したことを運命であると受け入れること。
- d 動揺し苦勞している人物に、安心できる環境を与えてあげること。

問二 傍線部2「ケチャップで卵の上に赤い花を描いてやる」ことを、筆者はどのような意味を持つものと考えているか。次の中からもっとも適切なもの一つ選べ。

- a 長女が母親代わりになることよって、幼い弟と妹の悲しみを和らげること。
- b よく母親が子どもたちによつてくれた行為を模倣することよって、母親を偲ぶこと。
- c いつも子どもたち自身が経験していたことを繰り返すことよって、悲しさや辛さに耐える力を得ること。
- d 慣れ親しんできた行為を通じて、母の記憶を心の中にとどめようとすること。

問三 傍線部3「知恵が失われている」とはどのようなことを意味するか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 近所づきあいにおける相互扶助の精神が失われてしまったということ。
- b うわべの言葉のなぐさめだけで、細やかな心づかいが失われてしまったということ。
- c 「心のケア」は当事者や身近な人々自身でも工夫次第によって可能であるということが、忘れられてしまったということ。
- d 日常的な行為の実践のなかに悲しみに耐える秘訣があることを、多くの人々が知らないということ。

問四 傍線部4「行政の役割」として筆者が正しいと考えているものはどれか。次の中から適切なものを二つ選べ。

- a 災害直後に、水や食料など生活必需品を早急に届けること。
- b 災害後、被災者のために仮設住宅を安全な場所に速やかに建設すること。
- c 災害後、被災者が慣れ親しんだ環境を取り戻すことができるように支援すること。
- d 災害後、被災者の心のケアのための専門家を派遣すること。
- e 被災者の声に耳を傾け、被災者のニーズに柔軟に対応すること。

問五 傍線部5「身体性の積み重ね」に該当しないものを次の中から一つ選べ。

- a 自宅と会社の往復。
- b 繰り返し相手の話を聞いていねいに聞くこと。
- c 料理における素材の扱いに専念する作業。
- d 慣れ親しんだ場所に暮らすこと。

問六 筆者は、なぜ「心のケア」や「癒し」に専門家が登場しているのは「消費社会の爛熟、消費主義埋没の問題」のためであると考えているか。次の中からその理由としてもっとも適切なものを一つ選べ。

a 何でもカネで買えるという考えが浸透した結果、心の傷の回復もカネ次第であると考えられているから。

b 消費社会が従来の生活空間を変えた結果、人間関係が希薄化し、心の病いが増加したから。

c 消費社会が従来の生活空間を変えた結果、日常生活と人々との結びつきが弱まり、商品として「心のケア」を人々が買
い求めるようになったから。

d 消費社会の発展によって、慣れ親しんだものも全て商品となったから。

問七 次の文章のうち、本文の内容に合致すると思われるものを二つ選べ。

a 行政は、災害直後に水と食料をはじめとする生活必需品や医療など緊急支援をおこなうほか、ある程度落ち着いてきた頃に、被災者の心のケアについても重要な役割を担う必要がある。

b 消費社会の浸透によって、無償で他人の相談にのるといった基本的な習慣がなくなってしまった。

c ふだんあまり自覚されないが、自分の身になじんでいるものや人や場所は、人を日常的に支える力となっている。

d 制度や専門家に安易に頼ることなく、日常のなかのつながりを重視し、自分たちの力で立ち上がろうとすることが今こそ求められている。

e カウンセリングの仕事は、臨床心理士などの専門家だけでなく、一般のボランティアによっても十分に果たすことが可能である。